

浄土真宗の葬儀 (第 4 回) - 伝え残したいもの -

本誌 23 号から「伝承された葬儀」、24 号「南加賀の葬儀事情」、25 号「浄土真宗の葬儀」を通して、改めて学び直してきました。

『仏種の断えざるが故に』、伝え残して行くために葬儀が営まれると思います。

それを踏まえ今回 26 号では、「今私達は、何をしなくてはならないのか。何をすべきなのか。」を、地域を同じくする、お西の寺院、門徒、葬儀社の方々とも話し合いを重ねてきました。まとまった結果を提示すべきですが、時間が足らず中間報告という形で掲載することになりました。ご一読願います。

「通夜・葬儀を考える」

懇談会参加者

お東 (真宗大谷派 大聖寺教区)

飯貝恵秀 (第一組組長)

本善寺住職 大聖寺鍛冶町

山本龍昇 上宮寺住職 直下町

芳原里詩 妙徳寺住職 小塩町

但馬 諒 興宗寺衆徒 月津町

二木利行 長寿寺住職 山中温泉

お西 (浄土真宗本願寺派 江南組)

河崎宗祥 (江南組組長)

専称寺住職 大聖寺鉄砲町

弓波眞樹 勝光寺住職 打越町

横河了然 篠生寺住職 動橋町

八幡慶嗣 本光寺住職 小松市

大文字町

御門徒

高村幸雄 (教区門徒会長) 野田町

野崎進一 (教区門徒副会長) 三木町

辻 等 (徳性寺門徒総代) 菅谷町

セレモニー (葬儀社)

JA 川田重昭

堀井敏史

タカダ 高田樹生

ハートフル 宮下典久

多賀英樹 (大谷派宗務職員)

葬儀 (仏事) がなくなる

お東 通夜葬儀なし、火葬場でお参りして火葬にという、直葬のご依頼があつて、お寺と問答になつたという報告がありました。これが主流となれば、全ての仏事がなくなりそうです。

セレ 私達は、火葬式(直葬)を推進していませんが、要望されますと、「ダメです、できません」とは言えない立場です。それで幸せになれるのかと思いますが…。

なぜ、家族葬なの？

セレ 10 年以上前までは、家族葬と呼ばず「密葬」と呼び、ほとんどが経済的な事情でした。

今は、お金の問題でなく「家族葬がいい」というご依頼です。

つまり「小さな葬儀がいい」と、お供え物が少なく、参詣人も減らし、参列範囲も狭くできる。

□□□□さん 1 日死去、□歳。自宅は大菅波町フ 8-1 通夜葬儀共に終了。喪主は○さん

新聞掲載欄

そして「お寺さんも一人で」と言われます。その方が派手さもなく、何か安心する感じですか。

葬儀案内は出さず、後日、「通夜葬儀ともに終了」と告知する。

お西 家族葬の場合「家族だけの葬儀」に聞こえ、参詣しづらい。葬儀終了後の告知では、参りたいと願っていても参れず、遺族は「案内しない、参列させない」ようにしているのではないのか。

経済的な問題でないなら、ご縁を切るということになる家族葬をなぜ選ぶのか。

お東 葬儀は、亡き人中心から喪主やその遺族中心へと変容してきました。亡き人がご縁を結び、お世話になった人に対して、遺族側から謝礼申し挨拶する機会を失くすことも理解できない。

セレ 今後の親戚関係、交友範囲を狭め、お付き合いをなくしたいと考える遺族が多くなります。

もちろん亡き人との関係で結

ばれたご縁を断ち切るのですから、当然寂しい事象も起こります。香典を返すことになり、後で叱られ、門前払いになったとか。家族葬の事前相談の方には、問題点を必ずお話しします。

伝承された葬儀

お東 「亡くなった」と聞けば、まづ念珠を持って、お悔やみに飛んで行き「どうした大丈夫」と、遺族に声をかけ、寄り添うことから葬儀が始まりました。枕勤め、内通夜、お通夜、葬式、火葬。還骨勤行から中陰が始まり、49日の満中陰まで、遺族だけでなく、親戚、友人、御町内の方々と時間を共有し、故人とのご縁を仏縁として学び育ちました。



第 1 回懇談会
1 月 17 日 於 大聖寺教務所

セレ 特にお通夜には、縁ある皆様が参詣し、全員で正信偈を唱和、そうして故人を偲ぶ。こんな凄惨な演出は、ここ以外に全国のどこにもありませんよ。

セレ 10 数年前までは、必ず地域の中にも、親戚の中にも、教え、導く人がいて、親戚の取りまとめから葬儀の段取り、焼香順、全部を采配し、その人を中心に話し合い、事を進められました。

でも今は、その役割も「お前がしなさい」と葬儀社に振られ、親戚の間に入って困惑しています。

お寺、お内仏から疎遠

セレ 若い人に「お手次ぎのお寺さんはどこ」と聞いても、「どこかわからん」と応える。枕勤めからと、葬儀を順番に説明しますが、全然分かっていません。

現状は、60 代以上の方でも一緒です。「お寺と疎遠で」、「仏壇開けたことない」と言う人もいます。お仏壇の中はカチャカチャ、花も枯れたまま、そのような家もよく目

にします。それを一つ一つ、私らの方で綺麗に掃除し荘厳してから始めます。

でも、葬儀自体を何もしないと、いう人は、ほとんどいません。



第 2 回懇談会 3 月 6 日 於 大聖寺教務所

疎遠の原因はお寺にも

門徒 葬儀や御法事の会食に、お寺さんは、出席されるべきです。次世代の人達と、先ずは顔つなぎから始めないと、誰もお寺さんを知らないですよ。

老若男女の皆さんが、会食の席に居られますから、今後についても話し合いが進むと思います。今の若い人はどうしたらよいか、分からないのですよ。

お西 「お斎を食べるのも御法事」と教えられました。膝を交えて、お話し、酒も酌み交わす。私達お寺は、大事なご縁をどう取り結ぶのが、問われているのです。

お東 お寺が「親身でなく疎遠になっている」と言われると、その通りです。亡き人との関係はあっても、若い世代の方々、遺族とは、初めましての関係なのです。

その関係を深めるには、一緒になる場所、時間、お参りが大事で、必要不可欠であります。

セレ お寺とご門徒さんの関係を月参りや門徒報恩講などを通し、時間を掛けて深めて頂きたい。「いざ」という時には、「お寺さん、ご院さんに電話せないかん」という、直ぐに名前が出てくる関係を作ってほしい。それには、日頃の積み重ねが大切です。

分らないからやらない

お東 葬儀は三日後です。困惑の中、葬儀社から提示されたカタロ

グを参照し、料金を見ながらの選
定作業が進められます。

ただ仏事になると「法名、通夜、
葬儀、中陰、何それ？やらねばな
らないの？」と、日常、全く分か
っていない自分を知るわけです。
しかし、それを改め、考え直す
こともなく、結局のところ仏事は
理解されることなく、簡略化して
葬式を終えることになるのです。

知らない、分からないまま

門徒 今の若い人は、親と同居し
ていないし、葬儀は、葬儀社に頼
めばどうにかなると思っていま
す。だから葬儀を知らない、分か
らないままです。

関心事は、費用と時間の節減。
分からない、理解できないものに
はお金も時間もかけない。だから、
止めて簡略化するのです。

満中陰(49日)までが葬儀

門徒 集まった香典だけで満中陰
(49日)法要まで賄えた。近頃は、
葬式が立派でお金も掛かる。
そのため費用を抑え、家族葬へ、

僧侶の諷経参りも止め、中陰勤め
も減らしているのでは。

セレ 20年前までは、私も親から、
香典収入で49日まで賄うよう指
導されました。その頃の香典数は
300〜500。この頃は、数も減り、葬
式だけで終わる状況です。

以前の葬式は、お手伝いを頼み、
皆さんで準備しました。
しかし今は、費用が掛かっても
葬儀社に頼み、手間を省くことに
変わったのです。

門徒 以前のように、お手伝いの
皆さんや親戚一同が、直ぐに集ま
りますか？セレモニーの時代、当
日のお参りに来るだけです。そう
いう時代と踏まえて、葬儀の準備
することが大事です。

でも普通の人は葬儀社へ行っ
て、「葬式は、どうしたらいいでし
ょうか」と話しますが、満中陰ま
では考えないでしょうね。

お参りは、できません

お西 中陰勤めは、お寺と相談。

ただ時代の事情、遠距離、夜勤
等々で、家族が一緒にお参りする
時間が取れないので、「中陰勤め
なし」の願いが増えています。



カタログを見ての打ち合わせ

セレ 若い人達は別宅、お仏壇は本
宅。初七日は葬儀当日、次は満中
陰の49日目という流れになり、も
ちろん月参りもできないと。

お東 葬儀社の間でも、中陰が会
食の事であるとか。初七日は、命
日から7日目、葬式当日に初七日
は、間違って使っています。

葬式費用の減額は

セレ 「正信偈を用意して下さい。
今なら暖房を、雪の除排雪を」
近頃は、雪の中でも革靴ですよ。

除雪には、重機と人を使います。
その費用をご負担していただくか
なければ提供できない。そういう
要望も当たり前の時代です。それ
で料金を設定しているので、ご理
解していただきたいです。

葬式の会食も、最近は火葬場で、
昼食と合わせて一緒にし、終える
形が増えていきます。「香典調べ」で
謝礼を申し上げる会食も取り止
めです。

家族葬が出てきて、売上自体も
減り、私共も大変なのです。

葬儀に関心をもって

お東 先ず葬儀に関心をもって考
えていただく事。葬儀社が提案す
る「終活」もその一貫でしょう。
送られる人は、「簡単でいいよ」と
口にしますが、葬儀は死を考え、
人とのご縁、出会いを教えられる
大切な場です。

葬儀社に相談、寺へは挨拶

門徒 喪主は、必ず葬儀社と相談
しますが、お寺とは挨拶程度です。
葬儀の始まりは、三者で打合せを

してほしい。今は葬儀社がカタログを出して選び進めますが、仏事としては話されません。



第 1 組組会
1 月 31 日 於 大聖寺教務所

寺側からの発言、お願い

お東 私達の方から葬儀の基本を示し「ここまではお勤め願います」と、こちらから発言提案していくしかないと思います。

門徒さんは、子どもに「こんな葬儀を」「お世話になった人、仲間の人にも声かけてね」と、伝えて一緒に考えてほしいのです。

門徒 同居している人は、少ないから無理があると思うけど。

私は、息子に葬儀の参列者を順番に書きおき、内容はこうだよと伝えていますが、さてどんな葬儀になるか、分からないね。

お寺側の積極姿勢を

お東 真宗の葬儀は、仏事であり、時間をかけ、順番に随い、丁寧に一緒に勤めてきました。

「なぜ、お通夜して、葬儀して、中陰勤めするのかわ」、お寺が答えを示す時代になったのです。

遺族とお寺の間に立つて指導説明され、伝統、慣習を支えた方々はもう居なくなり、法灯の継承が続かなくなっています。

その分、お寺側の積極姿勢が問われ、待たれているのでは。

葬儀にお坊さんが必要か？

お東 若い方の中には、「葬儀に僧侶を呼ばないとならないのか」と聞かれるケースもあるそうです。そもそも「僧侶が必要とされているか」ということも厳しく受け止めなくてはなりません。

ざっくばらんの場

お東 七日七日の中陰勤めが重要です。ご門徒から、「初七日の後、次は四十九日まで日程を飛ばして下さい」と言われても、「面倒で

も、七日七日のお勤めを」とお願いしています。一時間ほどお勤めしますと、打ち解けて、ざっくばらんな言葉で、話を聞かせていただいています。



中陰勤め
中陰壇を設え 7 日毎に 49 日まで

門徒 中陰勤めがなくなれば、聞き直す機会もなくなり、お寺との関係も離れ疎遠になります。

通夜法話はどうか

セレ 私は、通夜法話はあるほうがいいと思いますが、法話されるお寺が少ない。ただ、法話が長いと「嫌や」という声があります。お勤めと法話で約 35 分から 40 分です。それ以上は「長い」と。

門徒 「5 分でも法話して下さい」と、お東の寺院に頼んでいます。

通夜には、若い人もいて、一番伝えられる機会であると思います。法話をするお寺さんは半々です。

法灯、仏事が失われる

お東 この地区には、御門徒数がゼロ、または数が少ない寺院があります。今日まで各村の御講や寺院等に本寺の住職の代わりに出向き、地域の人達に浄土真宗を伝え教化してきました。

そのご縁で、お葬式にご招待し地域のお寺も支えてきたわけです。それが近年、諷経のご招待もなくなり収入が途絶え、存続できず廃寺にするしかない。

これまで地域で守られてきた寺院がなくなるとは、法灯も消えるということです。

お布施が安くて辛い

お西 ここ数年で、寺自体の収入が減り、経営も危うくなっています。葬儀のお布施の金額を決めて提示すべきなのか。

お東 仏壇の中にある香典帳を、まず見て確認してほしい。見たことない人が多いです。

ただし、昔の額は、今から見ると大きいです。そういう資料を見ずに今は葬儀が始まっています。

はつきり、もの申して

門徒 寺の世話方のわしらに葬儀のお布施の額を聞かれ、代わりに、お寺さんに訊ねると「お気持ちで」という返事しかない。

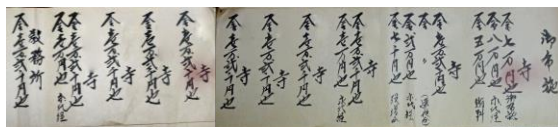
それで、セレモニーさんを頼り相談すると、はつきり答えられます。これからはお寺さんも、発言していけばと考えます。

セレ 御門徒さん方には、金額提示された方がいいと思います。

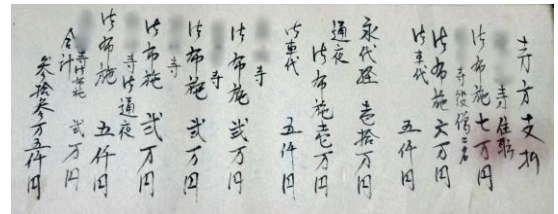
大聖寺教区で葬儀の金額について目安を作っていたら、内々に葬儀社へ通知いただき、その額を聞かれたらそれを渡す。「そんなの無理」と言われたら、お寺さんと直接お話し下さいと、それがいい形かなど。

私らが決めるわけではないので

すが、ただ聞かれるのは100%に近く毎回です。知らないとも言えず、相場を答えています。



昭和57年7月 36年前のお布施 総額 37万9千円



平成15年2月 16年前のお布施 総額 33万5千円

はつきりしないから困る

セレ 何回も困ったことは、喪主が葬儀社と決めた金額を持って行ったら、「金額が足らん」と返された。「恥かいた」と、苦言を頂くことが何度かあります。

最初からその額をお寺さんから私どもに提示してほしいという思いはあります。聞いたなら、なかなかおっしゃらないし、持って行ったら怒られるし、じゃあ私らどうしたらいいのか。

基準がないお布施

お西 物価も上がり、給料も所得も20数年前と比べ増えています。それに比べお布施の額は、上がらず反対に下がっています。

福井と加賀では倍以上違います。また小松と加賀はそんなにも変わりがないのに、金沢まで行きますと、また違います。

お東 生花料金が今年千円値上り、10数年前より5千円ほど上がっています、思わず「お布施は、据え置かれたままなのにね」と口に出しましたら、「そうですね」と葬儀社の方。

セレ 結局、基準がないから据え置かれたままと思います。

今年は、消費税が10%に上がります。「値上げも仕方ないね」と、言われるような事になれば、私らとしても提案しやすいです。基準がないと言いつらいです。

門徒 お布施が物価に応じるわけでもなく、金額が上がらない。お

寺さんの話を聞いて、そうなのかと思いました。それもみんな考えていきましよう。

通夜葬儀の印刷物

セレ 大聖寺教区として通夜・葬儀の基本を示して周知することで、弊社が独自に言っているのではないことを理解され、相談しやすくなります。基本が分からなければ、どうすべきかが、分かり辛いのではないかと思います。

編集後記

「物をいわぬ者は、おそろしき」「信不信、ともに、ただ、物をいえ」と、仰せられ候う。「物を申せば、心底もきこえ、また、人にもなおさるるなり。ただ、物を申せ」と、仰せられ候う由候う。 蓮如上人
「分らない、辛い」と言えない遠い関係になってしまいました。「ご院さん、お寺さん」と声をかけて下さい。お寺も「辛いのでお願いします」といいたいのです。「時代だから」と言い訳をいたしませんか。もの申す事が始めです。そう聞こえました。